

経済学委員会（第23期・第2回）議事要旨

I. 日 時：平成27年4月10日（木）12：30～13：25

II. 場 所：日本学術会議大会議室（2F）

III. 出席者：矢野委員長、青木副委員長、岩本幹事、永瀬幹事、大塚、北村、杉原、吉川の各委員

計8名

（欠席）池尾、西條、深川の各委員

計3名

IV. 議 事

（1） 前回議事要旨（案）の確認

前回議事要旨を確認した。

（2） 23期の活動方針について

矢野委員長より、9日の幹事会・分野別委員長合同会議での日本学術会議の今後の展望についての議論の報告があった。

（3） 分科会の活動状況について

各分科会の活動状況について、関係する委員より報告があった。

- ・ 矢野委員長より西條委員の代理で、IEA分科会は海外派遣代表を選定中であるとの報告があった。
- ・ 杉原委員より、IHEA分科会下の組織委員会が中心となって、国際経済史協会の第17回世界経済史会議（学術会議との共同主催）を8月に京都で開催するとの報告があった。
- ・ 岩本委員より、人口変動と経済分科会は社会保障財政の長期推計を求める内容の提言をとりまとめるよう活動するとの報告があった。
- ・ 永瀬委員より、ワークライフバランス分科会では提言をとりまとめるかどうかを検討することが提案され、了承された。また、ジェンダーに関する審議の分野間連携について、永瀬委員が検討することとした。
- ・ 北村委員より、数量的経済・政策分析分科会は5月の日本経済学会春季大会でチュートリアルセッションを開催すること、政府統計の利用推進について審議することとしたとの報告があった。
- ・ 青木委員より、持続的発展のための制度設計分科会は制度設計の審議をおこない、最終年にシンポジウムを開催する予定であるとの報告があった。

（4） その他

- ・ 岩本委員から、経済学の参照基準に対する反応として、3月に参照基準を取り上げた対談が『経済セミナー』誌に掲載され、4月に参照基準を取り上げた『経済学と経

済教育の未来:日本学術会議<参照基準>を超えて』が出版されたとの報告があった。

- 第一部で調査された人文・社会科学系学会連合組織のなかの日本経済学会連合には経済学分野の最大会である日本経済学会が入っていない事情について、第一部内での理解を広めることとした。

以上